
21 風邪に扇風機

日本とイギリスの習慣の違いは、あげていけばきりがないほど多い。紅茶を飲むときに、先に牛乳を入れるとか、ハンカチは鼻をかむもので手をふくものではないとか、カレーライスをフォークで食べるなどといった違いは、別に命にかかわるわけでもなく、いざとなれば、日本ではこうするのだと、開き直ればいい。だが、病気に対する処置の違いなどは、そうも言うてはいられない。

5歳の娘が、イギリスに着いてまもなく、高熱を出してしまった。ちょうどクリスマスで、一般の医者はずみ。かかりつけの医者は決めていなかったの、しかたなく知り合いのイギリス人に電話で相談をすることにした。その人は、日本の119番にあたる999に電話して、休日診療の病院を紹介してもらえという。そこで、言われるとおりに電話をして、自分の車で病院に行くことにした。1か月前に肺炎になっていたの、気をつかって、車を暖めて、しっかりと服を着せて病院に行った。

さすがにイギリスの医療システムは整っていて、病院に着くとすでに書類が受け付けにまわっており、すぐに診察室のほうに連れて行かれた。そして、看護師さんが最初にしたのは、簡単に熱をはかった上で、上着とセーターを脱がし、扇風機のスイッチを入れるということだった。

実は、家で熱が上がってきたときの処置について、妻と私とは、意見が違っていた。妻は、風邪の時には暖かくしたほうがよいということで、いくら暑がっても布団を着せる主義だが、私は、風邪の初期の寒気がする時には暖かくするが、熱があがり暑くなってきたら、別に布団を着なくてもいいというやりかただ。しかし、その私でも、さすがに扇風機をかけられたときには、かなり驚いてしまった。

日本では、熱とはなにかということが、きちんと理解されていないように思う。もちろん私もきちんとした説明を受けたことはないからはっきりしないが、ひとつは熱を上げることによって新陳代謝を高め、病原との抗争力を強めるといことと、もうひとつは病原との抗争によって、運動をしたときと同じように熱が高まるということではないかと思う。だから、熱によって他の病気を併

発するような危険がないかぎり、むやみに薬で熱を下げないほうがいいのではないかというのが、私の持論だ。一方、暑がるものを無理して布団の中に押し込むのは、運動中に厚着をさせるようなもので、危険ではないかと思う。

その点では、どちらかという、私の意見はイギリス流に近い。妻のやり方が日本の典型的な発熱に対する対応なのかどうかはよく知らないが、比較的よく聞く意見であることは確かのように思う。風邪で熱がある時に、体を暖かくするのか冷やすのか。もっともありふれた病気で、それも万病のもとといわれる風邪の治療で、これほど両極に分かれるというのは、いったいどういうことなのだろうか。この違いは、紅茶を先に入れるか牛乳が先かというような他愛もないものではなく、命にかかわる問題だ。そして、どちらかの側に、根本的な誤りがあるように思う。もしイギリスのやり方が間違っているとしたら、根本的な学術的誤りに根ざしているのだと思う。日本のやり方が間違っているとしたら、家庭医学の水準を高めるシステムが、あまり機能していないことになるのではないだろうか。

もちろん私は医者ではないから、どちらが正しいのかはわからない。しかし、私はひそかに、日本のやり方が学術的根拠を欠いているのではないかと疑っている。もしそうであるとしたら、日本の医療システムがあまりにも前近代的だということにならないだろうか。